

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 6年 3月15日

事業所名:生活クラブあのお家

チェック項目		はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1		基準以上の広さがあり、安心してサーキット等の運動もできるように、床には防炎のクッションマットを敷き詰めています。開所5年が過ぎ、高学年が増えてきたことで、自立心の芽生えからパーソナルスペースを求める傾向が出てきました。机（テーブル）を少しずつ離し、壁向きに設置したことで自分の好きな遊びや宿題に取り組めるようになりました。それぞれの傾向を見ながら、外遊びが必要なグループと室内遊びに集中したいグループに分けて活動を組み立てています。	
	② 職員の配置数は適切である	6		1	支援員1名で子ども2名担当を基本と考えていますが、こだわりが強く、切り替えが難しい時や自傷他害等の症状がある場合は、1対1対応を行っています。子どもよりも支援員の人数のほうが多い場合もあるのが現状です。ケア会議の月3回に回数を増やしたり、当日ミーティングでも細かい情報共有の時間を必ず確保し、日々対策を考え支援に臨んでいます。症状が続く場合は支援員の増員と連携で対応していますので、経営的にかなり厳しくなっているのが現状です。	強度行動障害支援者養成基礎研修修了者は、実践研修受講することを目標にします。基礎研修未受講者は受講し、全員が対応できるようにスキルアップを図ります。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6		1	建物自体は高齢者のデイサービスとして建築されバリアフリー化されています。ただしエレベーターは開所当時よりスイッチのいたずらや閉じこもり・見失い防止のため日常的に運転を停止し、2階の支援室まで手すり付きの階段を使用しています。必要に応じて稼働するため法令に則り年4回の定期点検を実施し、安全は確認しています。そのため、車いす使用や階段の昇降が難しい方の来所の際には、いつでも利用していただけます。	現在の通所児童の行動の傾向や閉鎖された場所での児童虐待の防止等を考慮し、日常的に稼働状態にしておくことは適切ではないと考えています。
業務 改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	1		支援員の意見を聞きながら、PCやタブレットを増やし、HUGシステムの導入などのIT化を進めてきました。また障害福祉の経験のある常勤職員を増やし、業務分担が可能になりました。サービス提供記録表や実績記録票の紙をなくし、電子署名にしたことで送迎時の保護者押印の負担軽減ができました。支援記録は各支援員がPCやタブレットで入力し、データ管理に移行したことで、用紙保管の作業が無くなりました。HUG移行については支援員がPC操作に慣れていけるよう、時間をかけて進めてきました。	
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			グや月3回のケア会議でも共有しています。HUG導入で保護者の方の意見が入りやすくなり、支援員へのフィードバックも早くなりました。会議で意見を聞きながら業務改善に取り組んでいます。	
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1		開所以来毎年HPでの公表としてきているため、改善状況の確認ができるよう、HPでの公表に統一しています。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
善	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	1	第三者評価は高額な費用が必要となるため、実施できていないのが実情です。外部委員として第三者委員や保護者代表に出席していただき委員会全大会（虐待防止・苦情解決・身体拘束適正化）で活動報告を行いながら意見をいただき、改善に取り組んでいます。 当施設は、発達障がい、自閉症、知的障がい等のほか、重症心身障がいや医療的ケア児の特性や支援についての専門性を理解して、評価してほしいと考えているため、適正評価が可能な業者選定が難しいと感じています。	新年度には実施の予定。評価機関の選定を進めていきます。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			今年度はあのねのお家の方針への理解をより深め、支援員の意識の統一を図ることに重点を置いてきました。支援員が課題と感じている児の事例検討をケア会議という形でOJT研修を、月3回行ってきたことで統一性を持った対応が可能になってきました。	「もっと研修してほしい。」との意見を踏まえ、ICTを活用した個人別研修計画を策定し、取組を始めました。国や東京都の研修素材を受講を進めています。全体研修としてペアレント・トレーニング研修を実施し、現場での対応を統一していきます。
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		児発管不在の時でも、モニタリング、アセスメントを行ってきました。早期対応が必要な事例を優先して保護者面談や相談を行ったり、子どもの意見や希望を聞き取って保護者に伝えてきました。ケア会議で意見を聞きながら分析し、原案を作成してきました。児童発達支援管理責任者が配置できたので、個別支援計画に反映し作成を進めています。	
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	1	開設時から使用している独自のアセスメントシートと自立支援協議会で作成した相談票を使用。当施設は障がい種別も様々で一人ひとり発達の状況に差が大きく、成長も著しいため、機能訓練士や支援員が確認しています。 その他発達検査結果や学校での個別教育指導計画等を提出いただきながら総合的に判断しています。	長期休みには言語聴覚士がひとり一人の発達を踏まえて適切な検査キットを選定し、あらためて発達検査を行います。検査結果は保護者と支援員にフィードバックし、支援内容に反映していきます。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		月のミーティングでおやつ作りと工作の2グループに分かれてアイデアを出してもらっています。その他のプログラムについても常勤がミーティングで提案し、詳細について意見を出し合いながら準備を進めています。	
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			企画提案できるよう全員に企画書類を配布し、アイデアを集めています。プログラム立案を常勤に限らず、誰でも個人の発想でも年間の企画やアイデアを自由に提案し、皆で話し合えるようにしています。	
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7			平日は学校の疲れやストレスをためて登所するため、リラックス方法が個人で変化してきています。一斉の集団活動から変更し、自分の好きなことに取り組む時間が必要な子と、仲間と元気に過ごして楽しみたい子に分けたグループ活動を取り入れてきました。課題も個々の発達の段階に差が出てきているので支援員の意見を取り入れながら、個別の課題に向けてプログラムを設定しています。 一方、長期休暇中は外出体験等を取り入れて、日頃行けないところや、時間のかかる活動をゆくりと取り組めるようなプログラムを作っています。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		学校行事や過ごし方によって日々症状が変化するため、気持ちの切り替えが困難や集団活動が難しい場合は個別活動に切り替えて対応する時間をつくっています。一定の時間の経過でタイミングを見ながら集団活動にスムーズに参加できる場合が多く、その子の気持ちの揺れに寄り添いつつ臨機応変な支援であるべきと考えています。計画ありきではなく「本人のニーズ（状況・ストレス）」を見極めて対応していくには、スタッフの感性と力量が問われてくるため、日々情報共通しつつ、当日の様子を見ながら個別活動と集団への参加を適宜判断しています。	多くの子が思春期前期にはいり、身体的成長とこだわりの変化が著しい年齢になり、課題も変化してきています。本人の望む個別活動の充実が重要になってきたと感じています。家庭と施設では様子が異なる場合が多くみられるため、家庭との連携を密にしなが、計画作成に取り組みます。
⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	7			支援開始前のミーティングでプログラムと子どもたちの変化の共有、注意事項など話合っています。子どもの状況によっては担当を変更しながら臨機応変に対応するため、連携が大切と感じています。	
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	3		サービス提供時間の終了が18:00、その後の送迎となると、なかなか日々の振り返り時間がとれない現状があります。記録や業務日誌、月3回のミーティング等で共有できています。その場において職員でトピックスなどあれば話をすることもあります。ヒアリングの場合は当日、にやりホットも支援員が元気になるよう、共有するようにしています。	
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			これまでは当日支援前に自分の担当児の記録を事前に読んでいましたが、HUGを導入し、前日利用児のサービス提供記録や支援記録を印刷して業務日誌に添付するようにしたことで、前日の子どもたちの様子が全体像として把握でき、共通認識が持ちやすくなりました。	
⑱	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1	1	児発管不在の時からモニタリングは行ってきました。一体型多機能事業所に変更し、個別支援計画は全て見直し作成します。	
⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	1		毎年、全員でガイドラインの総則の確認を行ってきた。今年度は年度初めに業務日誌に収めたことで、常に確認しながら活動への理解やプログラム提案に反映しています。	
⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1		開所当時から子どもの様子を見てきた管理者が参加しています。	
㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7			学校との情報共有の仕方は、各学校によって違います。支援級からは施設への下校時刻表を配布していただけるようになり、助かっています。通常級の場合保護者が行うものとされているため、下校時刻や行事等の変更など把握が難しいところがあります。	
㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	2			対象者なし

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3		今年度は対象者なし	
	㉔	学校を卒業し、放課後等サービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		4		対象者なし	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3		発達支援センターとは自立支援協議会の中で受けています。	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4	2	今年度は当施設で地域開放のイベント「桜まつり」を開催するため、子どもたちが児童館にポスターやチラシを配布を行いました。東京おもちゃ美術館の協賛で行うため、地域の子どもたちとの交流の機会とします。	児童館等だけでなく地域の公園や公共の場を使用している機会にかかわりがもてるようにしていきたいと考えています。
	㉗	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	1	4	1	管理者または児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			HUGの導入でサービス提供記録票で、施設での様子が今まで以上に詳しく伝えられるようになり、保護者の方からも家庭での様子をより詳しくお知らせいただけるようになりました。支援の内容に反映しています。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	5		ペアレント・トレーニングとしては開催していません。	特に児童期～青年期の子どもの姿は家族と学校と施設では環境も支援する大人も違うので、多面的に捉えていく必要があり、そのためには情報共有が大事になってきます。保護者の意向や相談があれば、一緒に考えながら、家族と施設が同じ方向を向いて支援に取り組んでいきます。
	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1		運営規定については玄関に張り出していますが、来所する機会がない方も多いので、改定に合わせて今後はHUG上でお知らせしていきます。支援の内容は重要事項説明書とHPで紹介しています。保護者負担については報酬改定後に別紙として配布しておりましたが、今後はHUG上でお知らせいたします。個人の負担額の詳細は毎月配布している明細書の通りです。	
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1		電話でもHUGでのご相談も受付ています。必要に応じて事業所内相談も行っております。	
㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	2		コロナで一旦中止していましたが、今年度はスタッフの希望もあり、和やかな茶話会形式での開催でした。親子参加のイベントとして「桜まつり」を計画しました。子どもたちの作品を見ながら交流を深めていただけると嬉しいです。	保護者会も開けるようになり、子どもたちの様子、保護者同士の交流も深めていけるプログラムを考えていきます。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			重要事項説明書の記載事項と同様に、玄関にも苦情相談窓口の連絡先を掲示しています。今年度は第三者委員の連絡先も記載し、相談しやすいところにご相談いただけるようにしました。施設内では書面受付、電話受付、ご意見箱の設置などで迅速に対応できるように工夫をしました。	
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1		HUGでの情報提供を行っています。日々のアクセスが難しいご家庭もあり、お返事が必要な件については、おたよりも同時に配布しています。通所回数が少ない場合は配布が遅れることもあり、HUGで個別対応でのお返事も受け付けています。	
	③⑤	個人情報に十分注意している	7			入職時に個人情報保護についての誓約書を提出してはいますが、意識の薄れを防止するために今年度から定期研修を開催することにしました。	
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			映像や動画、音、実物、絵、文字、サイン等、どの子にもわかりやすい方法を複数取り入れています。	
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3	1	これまで1階が0歳～3歳の医療的ケアが必要な重症心身障がいのお子さまの児童発達支援のため、外からの出入りについては慎重にならざるを得ない状況がありましたが、3月30日に子どもたちの作品展や東京おもちゃ美術館との協賛で地域開放の「桜まつり」を開催します。	
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			繰り返し読み返すようにしています。ミーティングで日々対応する担当は各自確認しています。	
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1		夏休みは稲城消防署に協力をお願いし、1週間の地震火災避難訓練（消火訓練）と冬休みも地震火災避難訓練1週間行い、避難場所となっている第3中学校まで歩きました。夏休みの暗闇体験。11月には寒さの中で過ごす暗闇体験と、災害伝言ダイヤル171を保護者の方に体験参加を呼びかけ実施しました。	
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			常勤職員が東京都の虐待防止研修を受講し、事業所内研修を実施しました。ストレスチェックシートとその分析を受けて職場環境適正化委員会を設置しました。	
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			組織的な決定としては第三者委員と保護者代表を交えた身体拘束等適正化委員会を開催し、委員会規程に則り、支援員のケア会議での意見を踏まえ、決定していきます。必要な場合には保護者への説明として「やむを得ない場合の身体拘束についての説明書」で保護者同意をいただき、個別支援計画の見直しを行います。	
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3		毎年更新をお願いしている、医療カードで確認していますが、現在医師の指示書が必要な方はなく、保護者の記述と聞き取りで対応しています。	

チェック項目		はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			月3回のミーティングの中で共有しています。ヒヤリハット事例集は業務日誌同様に毎日の出勤時に確認したり、日々のミーティングでも伝え共有しています。	

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。